

後藤 武薫 議員



一括質問方式

- ① 財政
- ② 農林水産業の問題
- ③ 治水問題
- ④ 交通基盤の整備
- ⑤ 文化財行政と観光振興

財政について

問 清水市長においては、昨年9月の市長選で向こう4年間の公約を掲げ、見事無投票による再選を果たされた。公約の柱は、人・文化・自然が生きるまちづくりであるが、その公約実現のため、新たな気持ちで予算編成に臨まれたと思う。本市の平成30年度の当初予算は、どのような思いで編成されたのか。

答 平成30年度当初予算の編成に当たっては、財政の健全化に配慮しながら、市政の基本としている安全・安心な元気で魅力あるまちづくりを念頭に、私が公約に掲げた人・文化・自然が生きるまちづくりの5つの公約実現に向けて、事業の厳選と財源の重点配分を行い、本市のさまざまな課題に対応すべく予算を編成したところです。

農林水産業の問題について

問 市長は先の市長選における公約の中で、農林水産業の振興や農林水産物加工に対する支援を行い、6次産業化を推進するとされている。市長の考えている6次産業化の推進とはどのようなものなのか。

本市には海、山、川の豊かな自然と豊富な農林水産物がたくさんある。これからの農林水産業の振興における6次産業化の推進策について、具体的な構想等があれば、そのお考えをお聞きたい。

答 6次産業化推進策の具体的構想は、本市の豊かな農林水産資源を基盤として、1次、2次、3次の

各産業分野において、多様な主体が自らの強みを生かして、他産業にも分野を拡大し、あるいは相互に連携、融合しながら、付加価値を向上、創造していくための取り組みとして推進をしていきたいと考えています。特に中山間地域では、地域資源を活用した新たな特産品の開発や農林漁業体験等を通じて、地域と都市住民とが交流するグリーン・ツーリズムの促進など、地域全体が元気になるよう、それぞれの個性や特色を生かした地域づくりを進めていきます。

6次産業化への取り組みは、農林水産業を基幹とする本市においては、未来を切り開くビジネスであると考えており、地域に根差した産業として大きく成長していけるよう、積極的かつ効率的に推進していききたいと考えています。

交通基盤の整備について

問 今後、随時松山自動車道と大洲道路の4車線化が進むであろうと期待しているが、4車線化の早期完成に向けて、本市としてどのような

に取り組まれるおつもりか。また、市長はその実現性の見通しについてどのように考えておられるのか。

答 松山自動車道と大洲道路の4車線化は、平成28年2月に、松山市から愛南町までの13市町が構成員となった松山自動車道・大洲道路4車線化整備促進期成同盟会を設立し、早期4車線化の要望を、国、県、NEXCO等に対し毎年行っています。松山ICから大洲IC間の残りの暫定2車線区間は、九州、四国、京阪神を結ぶ新たな国土軸の一部として、また災害時の命の道としても、重要性がますます高まってきましたので、交通量も増え、ボトルネックとなることが予想されます。

このことから、引き続き、松山自動車道、松山ICから大洲IC間、及び大洲道路の早期4車線化ができるよう、関係機関へ強く要望していきたいと考えています。明確な見通しではありませんが、同時にこの付加車線設置路線として指定された4路線の中では、交通量は圧倒的にこの区間が多いので、整備の優先順位も高くなっていると考えています。